

教育目標 心豊かにたくましく、生き生きと遊ぶ子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 一人一人の子どもが夢中になって遊び込むためには、子どもたち一人一人が自分のやりたいことと出会うことを見つけることが大事であると考え、今年度の研究テーマを「子どもたちの“やりたい”をつくり出す保育をめざして」として取り組んできた。園全体で教員同士が子どもの姿を共有し合い、教師の援助や園内の遊びの環境等互いに意見交換しながら翌日の保育へと活かせるよう取り組んできた。子どもの姿を多面的にとらえることで、より子どもの内面を理解することにつながっていた。また、教員同士で意見を出し合うことで、よりよい保育環境につながり、子どものやりたいを引き出し、子どもが変容していく姿が見られた。子どもの“やりたい”を探る中で、やりたいを生み出すための大事なキーワードも見えてきた。次年度も園全体で一人一人の子どもの育ちを丁寧にみとり保育を充実していけるよう取り組んでいきたい。 幼小接続については、架け橋期の教育について小学校とともに意見を交わし合うことができた。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 家庭でできないことを園で経験していることを保護者の方も大事だと感じてくださっていることが感じられる。豊かな体験ができるよう引き続き保育の充実に向けて取り組んでいってほしい。 小学校との連携については積極的に進めている。小学校との連携や交流は、幼稚園の子どもにとっても就学前の保護者にとっても安心感につながる大事なことである。立地条件を活かし子どもたちが豊かな体験ができるよう施設も積極的に活用させていただき、幼小接続に取り組んでいってほしい。 未就園児クラスの実組では、満3歳児のいちご組についても登録者や利用が増えている。引き続き園児獲得に向けて周知の工夫に取り組んでいってほしい。 地域との交流については、地域人材を活かした取り組みや交流など今後も継続してほしい。できることがあれば協力したい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年10月28日	学校運営協議会
最終評価	令和7年2月6日	学校運営協議会

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組	- 一人一人の子どもが自己を発揮し、自ら身近な環境にかかわって夢中になって遊び込むための援助や環境構成について考えるとともに、ねらいを明確にもち計画性をもった保育を実践し、振り返りや改善を組織的に行う。 - 保育の専門性を高め、子どもの育ちを保障していくために、研究保育やエピソード研修等園内研修を充実する。
(取組結果を検証する) 各種指標	- 幼児の姿の変容・週案の反省、評価の記述や事例検討 - アンケート項目「幼稚園は教育目標に向けての保育を行っていますか」 「幼稚園の環境は安全で子どもが豊かな体験ができるよう整えられていますか」 「子どもは楽しく幼稚園に通っていますか」 「子どもは自分のやりたいことを見つけて遊んでいると思いますか」

中間評価

各種指標結果	
日々、保育後に教員同士で子どもの姿を共有し個々の変容や教師の援助について語り合うことや事例検討することができた。	
アンケート項目「幼稚園は教育目標に向けての保育を行っていますか」 大変そう思う・そう思う回答 100%	
「幼稚園の環境は安全で子どもが豊かな体験ができるよう整えられていますか」 大変そう思う・そう思う回答 94%	
「子どもは楽しく幼稚園に通っていますか」 大変そう思う・そう思う回答 100%	
「子どもは自分のやりたいことを見つけて遊んでいると思いますか」 大変そう思う・そう思う回答 100%	
自己評価	分析（成果と課題）
	- 日々の保育後の振り返りから教員同士が意見交換することにより、より深い子ども理解につながっている。一人一人の子どもが夢中になって遊び込めるように教員間で連携をとりながら園全体で保育環境を整えることができた。 - 研究保育やエピソード研修等園内研修を進めることができ、自ら身近な環境にかかわって夢中になって遊び込むための具体的な援助や環境にむけて教員同士が互いに思いや意見を出し合うことができた。教員一人一人が子ども理解を深めることにつなげることができた。
	分析を踏まえた取組の改善
	引き続き、日々意見交換しあい教職員全員でよりよい保育の充実に向けて取り組んでいきたい。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
- 幼児の姿の変容・週案の反省、評価の記述や事例検討 - アンケート項目「幼稚園は教育目標に向けての保育を行っていますか」 「幼稚園の環境は安全で子どもが豊かな体験ができるよう整えられていますか」 「子どもは楽しく幼稚園に通っていますか」	

	「子どもは自分のやりたいことを見つけて遊んでいると思いますか」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 アンケート結果から保護者の方は、園の取組を評価されていると読み取れる。ホームページやInstagram等でその取組を発信して欲しい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 後期についても日々、保育後に教員同士で子どもの姿を共有し研究保育やエピソード研修を行い、個々の変容や教師の援助について語り合うことができた。 アンケート項目「幼稚園は教育目標に向けての保育を行っていますか」 大変そう思う・そう思う回答 100% 「幼稚園の環境は安全で子どもが豊かな体験ができるよう整えられていますか」 大変そう思う・そう思う回答 100% 「子どもは楽しく幼稚園に通っていますか」 大変そう思う・そう思う回答 100% 「子どもは自分のやりたいことを見つけて遊んでいると思いますか」 大変そう思う・そう思う回答 100%
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 今後も少人数園であるため常に教員同士が情報共有したり相談し合ったりしながら、園全体で日々の保育を進めることを意識してきた。成果として、園全体で保育を進めることで自分のクラスだけでは実現できないことを他学年も交えてみんなで一緒にすることで、子どもの“やりたい”を実現することや“やりたい”を生み出すことにつながっていた。 また、子どもたちの“やりたい”を生み出すためには、人的な環境が密接に関係している。園全体で教員同士が密に連携して日々の保育を進めていく必要がある。 分析を踏まえた取組の改善 少人数園のよさを活かしながら子ども一人一人の“やりたい”をつくり出すための教師の具体的な援助や環境を探り、子どもの育ちに必要な経験ができるよう工夫していく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 アンケートから家庭では経験できないことを幼稚園で経験していることを保護者の方も大事だと感じておられることが読み取れる。子どもたちの豊かな経験ができるよう保育の充実に向けて引き続き取り組んでほしい。

(2) 架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

具体的取組 ・ 年度当初に乾隆小学校との交流について年間計画を企てる。 ・ 進学した子どもの様子を伝えあい、子どもが安心して学校生活が始められるよう朝のほっこりタイムを行い支える。 ・ 互いに参観し合ったり、研究保育や研究授業を行ったりすることで互いの教育について知る機会

をもつ。 ・ 架け橋期のカリキュラムの見直しを行う。
(取組結果を検証する) 各種指標 ・ 年間の見通しをもち計画できたか。 ・ 事前・事後に内容についての協議ができたか。 ・ 研究保育や研究授業の参観、合同研修の回数や内容について。 ・ アンケート項目「保幼小連携、地域との連携等の取組は子どもの育ちにつながっていると思いますか」 ・ 架け橋期のカリキュラムの見直しができたか。

中間評価

	各種指標結果 ・ 年度当初に今年度に向けて話し合う時間をもち共有することができた。 ・ 事前、事後の内容について協議が開催できた。 ・ 5歳児と1年生とが合同の研究保育・授業を行い、その後一緒に協議することができた。 ・ アンケート項目「保幼小連携、地域との連携等の取組は子どもの育ちにつながっていると思いますか」大変そう思う・そう思う回答 100% ・ 架け橋期のカリキュラムの見直しについては、幼稚園と小学校で進めている。
自己評価	分析（成果と課題） 年度当初に今年度の方向性を確認する時間を持つことができた。 入学後の1年生クラスに幼稚園から教員が出向き、朝のほっこりタイムの時間に仲良し遊びや手遊びなどを行い、進学当初の1年生の姿を小学校教員と共有できた。 交流については、当日に向けて幼稚園・小学校互いの子どもの姿や教師の願いを事前の打ち合わせで話しあい確認することができた。 6月には、5歳児と1年生が合同の研究保育・研究授業を行うことができ、その後の研究協議についても開催できた。互いの視点から意見を出しあい、交流当日に向けて、環境や教師の援助などよりよくなるように交流を迎えるまでに打ち合わせを重ね内容の充実につながった。 交流事後の協議については、時間を捻出することに課題はあったものの交流後の姿や育ちを話し合うことができた。 また、架け橋期のカリキュラムの作成については現在進めているところである。
	分析を踏まえた取組の改善 ・ 架け橋期のカリキュラムについて検討する。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・ 見通しをもち計画できたか。 ・ 事前・事後に内容についての協議ができたか。 ・ 研究保育や研究授業の参観、合同研修の回数や内容について。 ・ アンケート項目「保幼小連携、地域との連携等の取組は子どもの育ちにつながっていると思いますか」 ・ 架け橋期のカリキュラムの見直しができたか。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 小学校との交流は、小学校へ進学時に子どもが見通しがもてることにつながるので今後も積極的に進めてほしいと願う。
---------	--

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 - 計画していたよりも多くの交流する機会がもてた。事前、事後の話し合いについては時間をつくり出すことは難しかったが、隣接している環境を活かしながら進めることができた。 - アンケート項目「保幼小連携、地域との連携等の取組は子どもの育ちにつながっていると思いますか」大変そう思う・そう思う回答 100% - 小学校の幼小接続主任と自校園の幼小接続の具体的取組から、互いの学びや大切にしていること、子どもの育ちについて確認し合った。 - 架け橋期のカリキュラムの作成をした。
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 5歳児と1年生との交流については、自園の立地環境を活かし計画していた以上の交流をもつことができた。子どもたちも年間を通しての交流により1年生や学校という場に親しみをもつことができ、1年生との関係性を深めることができた。また、教員同士が交流での子どもの姿を通して話し合うことで架け橋期の子どもの姿や育ちを学び合えた。 課題としては、交流の事前事後の時間を捻出しだすことが難しかった。また、地域の就学前施設との連携については課題が残る。
	分析を踏まえた取組の改善 時間の捻出については、立地条件を活かし工夫して取り組んでいきたい。 地域の就学前施設との連携についても進めていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 幼小接続の取組は、子どもたちにとって大事な取組である。立地条件を活かし、今後も引き続き積極的に取り組んでほしい。

(3) 預かり保育に関して

	具体的な取組 - 子どもの実態により、預かり保育の指導計画を見直す。 - 個の興味に応じてゆったり楽しめる環境や季節ならではの遊びや新鮮な遊びも取り入れ内容の工夫に取り組む。 - 担任と預かり担当教員との連携を密にし、子どもが安心して参加できるよう家庭的な雰囲気をつくる。
	(取組結果を検証する) 各種指標 - 預かり保育の参加状況とその活動内容や指導計画の見直し状況 - 週案の振り返りによる子どもの姿のみとり

- ・ 担当者と担任との連携状況の振り返り
- ・ アンケート項目「子どもは、楽しんで預かり保育に参加していますか」

中間評価

各種指標結果

- ・ 子どものその日の実態に合わせて保育内容を見直している。指導計画についても見直しを進めている。
- ・ 日々の振り返りから子どもの興味や関心、実態に合った保育が進められるように進めている。また、新鮮な遊びも取り入れながら個々がゆったりと家庭的な雰囲気でも過ごせるように取り組んでいる。
- ・ 担任と担当教員との連携については、日々子どもの姿を共有し合い保育に活かすことができた。
- ・ アンケート項目「子どもは、楽しんで預かり保育に参加していますか」

大変そう思う・そう思う回答 78%

自己評価	分析（成果と課題） その日の子どもの姿や生活の流れを考慮して、預かり保育の内容を毎日見直している。また、担任と担当教員が連携をとり子どもの姿を共有し進めることができた。子どもや保護者と担当者との関係が築かれ安心して参加している。また、預かり保育の内容についても見直し、つくって遊ぶの日やサッカーの日を月に1回程度設け、子どもたちの楽しみとなっている。 アンケート結果については、個人差が見られた。まだ預かり保育の利用がない方もおられる。
	分析を踏まえた取組の改善 今後も預かり保育の内容の充実に努める。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・ 預かり保育の参加状況とその活動内容や指導計画の見直し状況 ・ 週案の振り返りによる子どもの姿のみとり ・ 担当者と担任との連携状況の振り返り ・ アンケート項目「子どもは、楽しんで預かり保育に参加していますか」
	学校関係者による意見・支援策 預かり保育時の内容として安全面での管理や体制が整うようであれば戸外で活動の時間もあるとよいだろう。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・ 季節の遊びを取り入れ子どもの興味や関心に合わせ内容の工夫に取り組んだ。
 - ・ 担任と担当教員との連携により、一人一人に寄り添ったかかわりにつなげることができた。また、担当教員と保護者との連携についても深まっている。
 - ・ アンケート項目「子どもは、楽しんで預かり保育に参加していますか」
- 大変そう思う・そう思う回答 89%

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 後期アンケート結果が前期よりも11%上昇していた。季節の遊びを取り入れたり、個々の興味や関心のある遊びを取り入れ内容の工夫に取り組むことができた。担任と担当者との連携については子どもの今の姿を共有しながら取り組むことができた。
------	--

	満3歳児の預かり保育の利用が9月より始まった。預かり保育では異年齢児とのかかわりが多く、満3歳児と在園児とのつながりが預かり保育を通してより親しみを深め、在園児が自分の成長に自覚をもちかわりすることにつながっている。 課題としては、満3歳児の預かり保育の利用が始まり、これまで以上により遊びの内容や場の工夫が必要であると感じる。また、人的配置についても調整の工夫に取り組んでいきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 参加人数や年齢、時期等により、より遊びの内容や場の工夫が必要である。その時々で実態に合わせて工夫していく必要がある。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 預かり保育を気軽に利用できることは保護者の就労や負担軽減につながっている。 担当者と保護者との信頼関係も築かれている。

（４）子育ての支援に関して

具体的取組 ・ 未就園児クラスの教育相談について広く発信する。 ・ 未就園児の「さくらんぼ組」や満3歳児「いちご組」の実施曜日、内容等定期的に見直し充実に取り組む。 ・ 「ほっこり子育て広場」を開催し、幼児期の子育てについて話し合える場づくりや企画の提供を行い、子どもの育ちや発達を考える機会を設定する。 ・ 地域の児童館や地域諸団体との連携を図り、子育て相談や園庭開放を実施し、地域の子育て支援センターとしての役割を果たす。
（取組結果を検証する）各種指標 ・ 未就園児教育相談クラスの参加状況や取組内容 ・ 子育てについて話せる場の開催状況 ・ アンケート項目「さくらんぼ組やいちご組（満3歳児）、預かり保育等の子育て支援の取組があることを知っていますか」

中間評価

各種指標結果	・ 保育会の協力を得て未就園児の教育相談について広く発信することに取り組んだ。 ・ 「ほっこり子育て広場」の開催については、後期に課題が残った。 ・ アンケート項目「さくらんぼ組やいちご組（満3歳児）、預かり保育等の子育て支援の取組があることを知っていますか」大変そう思う・そう思う回答 100%
自己評価	分析（成果と課題） 満3歳児いちご組の登録者や問合せ等が増えた。9月よりいちご組開催日にいちご組対象の預かり保育も始めた。引き続き広く発信し周知していくことに取り組んでいきたい。また、内容についても日々見直しを図りながら進めている。後期に向けても工夫して取り組んでいきたい。 分析を踏まえた取組の改善 未就園児教育相談さくらんぼクラスの参加者の増加に向けて内容の工夫・発信に取り組んでいき

	たい。 「ほっこり子育て広場」の開催に向けて取り組みたい。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・ 未就園児教育相談クラスの参加状況や取組内容 ・ 子育てについて話せる場の開催状況 ・ アンケート項目「さくらんぼ組やいちご組（満3歳児）、預かり保育等の子育て支援の取組があることを知っていますか」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 地域の子育て支援とも積極的につながり、園の子育て支援の取組を発信して欲しい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・ 保育会の協力を得て未就園児の教育相談について広く発信することに取り組んだ。 ・ 「ほっこり子育て広場」の開催については、後期に開催することができた。 ・ アンケート項目「さくらんぼ組やいちご組（満3歳児）、預かり保育等の子育て支援の取組があることを知っていますか」大変そう思う・そう思う回答 100%
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 後期には、満3歳児クラスのいちご組の登録や利用者が増えた。9月からは、満3歳児クラスの預かり保育も開始した。また、地域の子育て支援施設とも新たに連携してすすめていくことができた。地域の幼稚園として地域の子育て支援センターとしての役割を果たせるように努力していきたい。未就園児の教育相談クラスについては広く発信することに取り組んだが今後も取り組んでいきたい。 また、ほっこり子育て広場の開催をすることができ、保護者同士が子育てについて語り合う場がもてた。しかし、開催時期が遅くなってしまった。次年度は開催時期を見直す。 分析を踏まえた取組の改善 地域の子育て支援施設とのつながりを広げ、地域の子育て支援センターの役割を果たせるように取り組んでいきたい。 発信の工夫に取り組んでいきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 できることがあれば協力したい。

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組 ・ 学校運営協議会の方と情報交換や連携の強化に努め、関係者評価を活用し、教育活動の改善を図る。また、地域の資源を活かした指導計画を作成する。
--

・ ホームページや幼稚園だより等で幼稚園の取組や活動について発信し開かれた幼稚園づくりをする。また、発信のひとつにInstagramを開始する。
（取組結果を検証する）各種指標 ・ ホームページやお便りなどの発信状況 ・ 学校運営協議会の方を含む地域の方の意見の聞き取り ・ 地域行事への参加の様子 ・ アンケート項目「保幼小連携，地域との連携等の取組は子どもの育ちにつながっていますか」

中間評価

	各種指標結果 ・ ホームページやInstagram、お便り等の発信に取り組んだ。 ・ 毎朝の交通安全見守りで園児に声をかけてくださっている ・ 地域行事への参加については、乾隆祭りに園児がステージ発表に参加した。 ・ アンケート項目「保幼小連携，地域との連携等の取組は子どもの育ちにつながっていますか」 大変そう思う・そう思う回答 100%
自己評価	分析（成果と課題） Instagramを開始することができたが、ホームページとともに更新の回数には課題が残る。後期に改善していきたい。 地域への行事参加では、乾隆祭りに参加し園児が沢山の方の前でステージ発表をするという貴重な体験の場となった。
	分析を踏まえた取組の改善 地域との連携については、地域の方と園児が交流できる機会のもち方を考えていきたい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・ ホームページやお便りなどの発信状況 ・ 学校運営協議会の方を含む地域の方の意見の聞き取り ・ 地域行事への参加の様子 ・ アンケート項目「保幼小連携，地域との連携等の取組は子どもの育ちにつながっていますか」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 地域の方と園児が交流できる取組について今後工夫して考えてほしい。地域も協力していきたい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・ ホームページやお便りなどの発信することに取り組んだ。 ・ 後期には、地域の方をゲストティーチャーとして迎え織物体験をしたり、地域にある施設織成館へ出かけたりし、地域のことを知ることができた。 ・ 地域の方とのふれあい会を開催することができた。 ・ アンケート項目「保幼小連携，地域との連携等の取組は子どもの育ちにつながっていますか」 大変そう思う・そう思う回答 100%
--

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 後期には、年長児が織物体験をする前にゲストティーチャーとして地域の方にお越しいただき織物や地域の歴史の話を聞かせてもらった。織機の使い方やしくみ、織物に関心をもつことにつながった。また、地域の織成館に見学に出かけ、本物にふれることや説明を聞かせていただくことで繭玉や糸等、より関心を広げる貴重な経験となった。 今年度新たに取組んだ地域の方との交流会では、お正月の遊びや製作遊びをしたが地域の方に親しみをもってかかわっている姿が見られていた。地域の方の中には、乾隆幼稚園出身の方もおられ、子どもたちは、より親しみを感じているようであった。次年度は、より地域の方に参加いただけるよう時期や日程を検討していきたい。 お便りで発信することには取り組めたが、インスタグラムについては課題が残った。
	分析を踏まえた取組の改善 次年度も地域の方をゲストティーチャーに招き、地域を活かした取り組みを続けていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 地域の方とのふれあい会は、地域の方もとても喜んでおられた。今後も継続して計画してほしい。

（６）教職員の働き方改革について

重点目標 働き方改革を意識し、園全体で組織的に取り組んでいく
具体的な取組 ・ ノー残業デーの実施 ・ 会議時間の開始と終了時刻を明確にする。また、資料は事前配布を行い会議時間の短縮を図る。 ・ 優先順位をつけ業務に取り組む。 ・ 教職員間の連携を強化する。
（取組結果を検証する）各種指標 ・ ノー残業デーの実施状況 ・ 教職員の超過勤務時間の状況や年休取得率 ・ アンケート項目「教職員は生き生きと働いていますか」

中間評価

各種指標結果	
・ ノー残業デーの実施は継続が難しかった。 ・ 教職員の超過勤務時間の状況については昨年度との同程度 ・ アンケート項目「教職員は生き生きと働いていますか」大変そう思う・そう思う回答 100%	
自己評価	分析（成果と課題）
	・ ノー残業デーの実施についての継続は難しかったが、働き方改革への意識については高まっている。また、校務支援員との連携が進み働き方改革につながっている。会議時間については事前資料配布により時間短縮につなげることができた。

	・ 園組織として、見通しをもった計画をたて教職員の連携を強化し取り組んでいきたい。
	<u>分析を踏まえた取組の改善</u> ・ ノー残業デーの実施については、継続して取り組んでいけるように進める。 ・ 組織的に改善できるところを見直す。
	<u>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</u> ・ ノー残業デーの実施状況 ・ 教職員の超過勤務時間の状況や年休取得率 ・ アンケート項目「教職員は生き生きと働いていますか」
学校関係者評価	<u>学校関係者による意見・支援策</u> 時間を意識して取組を進めてほしい。

最終評価

	<u>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</u> ・ ノー残業デーの実施は継続が難しかった。 ・ アンケート項目「教職員は生き生きと働いていますか」 大変そう思う・そう思う回答 100% ・ 令和6年10月31日の学校運営協議会前にリーフレットの配布を行ったが、時間の関係で詳しい説明や意見交換はできなかった。
	<u>自己評価</u> <u>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</u> ・ ノー残業デーの取組については、後期も徹底が難しかった。 ・ 教職員の超過勤務については、行事前には増加する傾向が見られた。 ・ 会議については、事前の資料配布で共有できるものと全体で会議をもち共有するものと精選し取り組んでいきたい。 ・ これまでの業務を見直し、園組織で連携を強化して取り組んでいきたい。 ・ 校務支援員との連携が働き方改革につながっている。 <u>分析を踏まえた取組の改善</u> 園組織で業務を見直し、改善に取り組んでいく。
	<u>学校関係者による意見・支援策</u> 先生方一人一人が働き甲斐をもち働けるよう取組を進めてほしいと願っている。何か協力できることがあれば協力したい。